

日商簿記2級（平成29年6月 新論点講座）#4

【外貨換算会計その①】

収録日：平成29年4月7日

外貨建て取引とは？

外国企業との取引ではない

日本企業が相手でも、外貨で取引すれば外貨建て取引

変動相場だから換算の必要ある。固定相場だったら取引時のレートで換算して終わり（論点ない）

<例題1>

商品100\$を掛け（翌月末回収）で販売した。

（取引時為替レート<直物レートといいます> 1\$100円）

弥生会計は\$に対応していません（残念ながら）

という事は日本円にしなければ・・・

換算の意味は「決済日に最も近い日のレートで金銭債権・債務を仮計算する」と覚えておこう

売掛金 10,000円 / 売上 10,000
決算日に最も近い日は今日 相手科目として同じ金額

債権を確定させる

<例題2>

上記売掛金を100\$を回収した。

回収日のレートは105円だった

\$で回収したらどうしますか？そのまま持っていてもいいのですが、仕入先などへ払うのなら銀行で両替しますよね。

という事は100\$を銀行にもっていったら10,500円になった訳です（得しました）

輸出企業が円安になったら、もうかる訳がわかりました・・・

仕訳は

現金 10,500円 / 売掛金 10,000円
為替差益 500円

逆のパターンが為替差損になります

続いて決算時の処理です

取引	決算	決済
100 円	102 円	105 円

換算の意味は「決済日に最も近い日のレートで金銭債権・債務を仮計算する」と覚えておこうでしたね。決算日は取引日よりも決済日に近いですね。

<決算日の仕訳>

売掛金 200 / 為替差益 200

<決済日の仕訳>

現金 10,500 / 売掛金 10,200
為替差益 300

イメージできたところで換算ルールを見てみましょう

貨幣項目	資産	外国通貨、外貨預金、売上債権、未収金、貸付金等	C R (CurrentRate)
	負債	仕入債務、未払金、社債、借入金等	C R
非貨幣項目	資産	棚卸資産、前払金、固定資産	H R (HistoricalRate)
	負債	前受金など	H R

貨幣項目＝あとからお金が入ってくるもの、または出ていくもの（換算が必要）

棚卸資産は、次は売上原価になります（費用性＝非貨幣性資産）

固定資産は、次は減価償却費になります（費用性＝非貨幣性資産）

未払金は後からお金が出ていきますが、前払金は既に支払済で円で確定しています

ここで、P Lの事も少し意識しましょう

固定資産はHRで換算です。だったら減価償却費もHRでしないと残が残ってしまいますね

ここらは1級の項目でした（すみません）

<参考>

1,000 \$ 商品の購入を約して 100 \$ 前払いした（直物レート 100 円）

前払金 10,000 / 現金 10,000

商品を掛けて購入した（直物レート 90 円）

仕入 91,000 / 買掛金 81,000 (900 \$ × 90)

前払金 10,000

金銭債務の換算が最優先です

（前払金は0にしないといけないので、これは確定値）